

さらしなうた

カムイキ	5
東山道	8
千曲どんぶり	10
霞堤	14
冠麓	18
大学	22
みどり亀	24
郡	27
杏大将	33
鏡台山	36
山の国	38
月の都	43
不界もの	46
レジ担	48
雲海	53
ゴッホの麦畑	55
チビ	58
きゅうり	60

更科の旅	62
良経	66
坂城の書店主	68
異名	70
善光寺	72
粉の味	74
まつえい	77
さらし皇女	80
白助と黒彦	82
耳かき	84
盆花	86
得休	88
滝つぼ	90
恐るべからず	92
アドバンテージ	94
花畑	97
細菌の記憶	102
柿星	104
あとがき	

カムイキ

さらしなの象ちよう冠かむりきやま着山であるまたの名姨おばすてやま捨山である

冠着ははじめカムイキかもしれぬ神立つ山としていまも在り

朝の日を初めにあびて冠着は里人の眼めにひかり届ける

国見せしすめらみこと天皇を思うなり冠着より見るさらしなの里

吾あの生地合併により消滅す更級さらしなむら村の入り口である

吾を産す宇宙の銀河太陽系地球の日本にっぽん信濃しなのさらしな

東山道

道ありてさらしなのさと都へと人も情報はこばれにけり

東山道ひがしやまみちと呼ばれしさらしなを歩みゆきたり都の人は

地名なる遺産があると合併は教えつくれりさらしな更級への道

都人みやこびとが峠に見たるまだ名をばつけらる前の原始さらしな

南北をつなぎし列車に眺めて浅井作詞す更級小歌

千曲どんぶり

万葉集に「信濃なる千曲の川のさざれ石も君し踏みてば玉と拾はむ」の歌がある

少年の時が集めし石たちは万葉<sup>まんようびと</sup>人の踏みし玉かも

土手坂の向こうの世界知りたくて若き猫らの首伸びにけり

石積みの河原地蔵はうずもれる次の冬まで災をあずかる

せんまがりと読む人がいる川沿いに生まれ五十九望みまっすぐ

車いぬ堤防走行往復に二時間かけて高校千日

川向こうの中高通う六年の動線引けば郷里に太線

望月に千曲ちくまの水みな面おも焦がされて灯かりなき土手われら燃焼

あらわれた月の面おもてに見ているのあなたの姿恋するわたし

千曲にて泳ぐいちどの体験をプールを知らぬ伯父おじがくれにき

鯉こいのフライ卵でとじてカキンとふ蓋をのせれば千曲どんぶり

春の土手三輪せん頭二輪追い一輪続き三本の老い